特別公開10

重要文化財

藤岡家住宅

（ふじおかけじゅうたく）

奈良町の ちょっといいところを 見て知る秋の1週間
～きたまち・ならまち・高畑・京終～
11/7(sun)▶14(sun) 2021
場所：奈良町一帯

①歴史・概要

18世紀後半頃の町家です。当初は生薬類、幕末頃からはろうそく・鬢付油（整髪料）・おはぐろ等の小間物類、昭和になって紙類と、昭和30年代まで商いが行われ、栄えました。正面の建具はすべて開放できるようになっていて、商家の特徴をよく示しています。

建築年代が古く、商家の表構えをよく伝え、内部意匠も洗練されていて、奈良の町家の典型として貴重です。

②見どころ

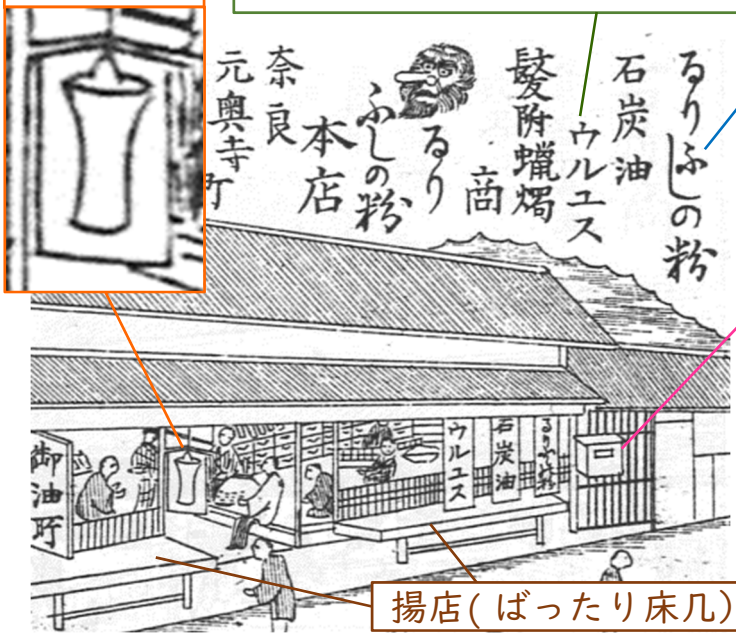
正面を開放した商家の姿。下図は明治期のこの建物の様子です。当時を想像して、イメージをふくらませてみてくださいね！

ろうそくの看板

ウルユス　薬の名。「空ス」という字を分解してネーミング。腸を「空ス」下剤、あるいは毒を「空ス」万能薬という意味。

るりふしの粉　「ふしの粉」とは、おはぐろ用の染料のこと。

郵便ポスト　明治初期、この建物は郵便取扱所（現郵便局）となりました。数年でやめたようですが、この図には郵便ポストが描かれています。



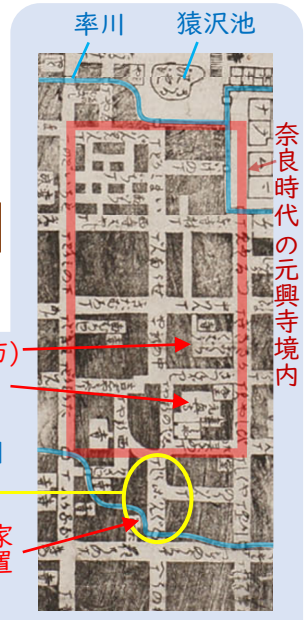
揚店（ばったり床几）

▲『大和名勝豪商案内記』明治17年(1884)

豆知識

・この辺りはかつて元興寺の門前でした。このため元興寺町といいます。小寺院となった現在の元興寺は、別の町にあります。

・江戸時代の地図では、町を川が横切っています。この川は今も藤岡家の下を流れていて、土間に石橋がかかっています。



『和州南都之図』宝永6年(1709) 部分

●関連情報

奈良市東部、田原地区の松本家住宅（市指定文化財／幕末）には、明治初めの郵便取扱所の窓口が残り、全国の郵便ファンに知られています。

※見学は要予約。

検索 原やま里博物館